

ペットの同行避難マニュアル



令和7年12月

羽曳野市

目次

はじめに	・・・・・ 2ページ
I 平時の準備	・・・・・ 3ページ
①防災対策（住まいの安全確認）	
②しつけと健康管理	
③避難を想定した準備	
④避難用品と備蓄品の確保	
⑤身元表示～迷子の際困らないために～	
II 災害時の行動	・・・・・ 8ページ
①安全確認と避難の判断	
②ペット同行避難	
③避難生活と共に	
④同行避難可能施設一覧	

はじめに

近年ではペットも家族の一員となり、飼い主は災害時にペットを連れて避難したいと考えています。ペットと同行避難をすることは、動物愛護の観点のみならず、飼い主である被災者的心のケアの観点からも重要であると考えられています。

このマニュアルは、災害時に飼い主とペットが安心して避難できる環境を整えるとともに、避難所でのペットをめぐるトラブルの防止を目的としています。

身近な避難所でペットを受け入れることで、飼い主がペットを連れて躊躇なく避難できる体制をつくり、飼い主の安全確保を目指します。

災害はいつ起こるか分かりません。いざという時に適切な対応ができるように、日頃からペットのしつけや避難生活で必要になる物資の準備を行うなど、災害に備えておくことが大切です。

災害時に人とペットが安心して避難生活できるように日頃から準備しておきましょう。



用語の定義

①同行避難

災害時に飼い主がペットと一緒に避難所まで避難することです。

飼い主とペットが同じスペースで生活することの意味ではありません。

※なお、身体障がい者につきましては、盲導犬・介助犬・聴導犬と共に避難所に避難してきた場合、その「同伴」を拒んではならないことが法律で定められています。

②ペット

本マニュアルで定めるペットは、犬や猫その他の小動物となっています。

人に危害を加える恐れのある動物や、特別な管理が必要な動物については受け入れることができません。

③避難所

災害時、自宅での生活が困難となった方が生活をする場所で、一定期間滞在できる場所として設けられており、市立小中学校等の施設が指定されています。

自宅が安全である場合には「在宅避難」をしていただく事が基本となります。

④避難場所

災害発生直後の一時的な危険回避場所で、短期間で安全を確保できる場所として設けられており、公園、広場や駐車場などが設定されます。

安全が確認された後、避難所に移動することが一般的です。

I 平時の準備

①防災対策（住まいの安全確認）

災害時、人もペットもけがをしないよう、家の中に危険な箇所がないか確認し、家具の固定等一般的な防災対策をしましょう。

Check!!

□ガラスの飛散防止対策を講じている



□飼育場所の安全確保ができている

□家具やハードタイプのキャリーやケージの転倒落下防止対策を講じている

- ・普段からケージなどの避難（隠れ）場所をペットが使えるようにしておきましょう。
- ・屋外で飼育している場合は、ブロック塀や窓ガラスの近くを避けましょう。
- ・河川の増水や津波の恐れがある地域では、浸水の可能性も考慮しましょう。

②しつけと健康管理

<しつけ>

日頃からしつけができるいると、他人への迷惑の防止や、無用なトラブルの回避ができ、また、ペット自身の避難所生活でのストレスが軽減できます。

Check!!

□猫は室内飼育をする。



□決められた場所で排泄ができるようにする。



□不必要に吠えたり鳴いたりしないようにする。

□他の人や動物を怖がったり、攻撃的にならないようにする。

□キャリーバッグやケージに入ることを嫌がらないようにする。



いち早く安全に避難し、避難所でも落ち着いて生活できるよう意識して取り組みましょう。かかりつけの動物病院等からペットの飼育方法を事前に確認するのもいいでしょう。

<健康管理>

ペットの不妊去勢と健康管理を行うことで、避難所での問題行動の抑制や感染症の防止に繋がります。また、ペットの体を清潔に保つことも大切です。

Check!!

- 不妊・去勢手術をしている。
- 各種ワクチン接種をしている。
- ノミ・ダニなど寄生虫の予防。



思わぬ繁殖を防ぎ問題行動を抑制する効果もあるので、不妊去勢手術をしておきましょう。避難所では多くのペットと同じ場所で過ごすことになります。感染症予防のため、日頃からワクチン接種を行いましょう。

犬は、飼い犬登録と毎年の狂犬病予防接種が義務付けられています。

ケージに慣らしておきましょう！

ケージやキャリーバッグは動物病院に連れていく時だけに使わず、日頃から扉を開けた状態で部屋に置き、ペットがくつろいだり眠ったりする「安心できる場所」として慣れておくようにします。

避難時の速やかな連れ出しが可能、ケージ内で過ごす時間が長くなる避難生活でもペットのストレス軽減につながります。



※猫はもともと狭いところに入りたがる性質があるため、中でフードを食べさせるようにすれば、早くケージに慣れるでしょう。

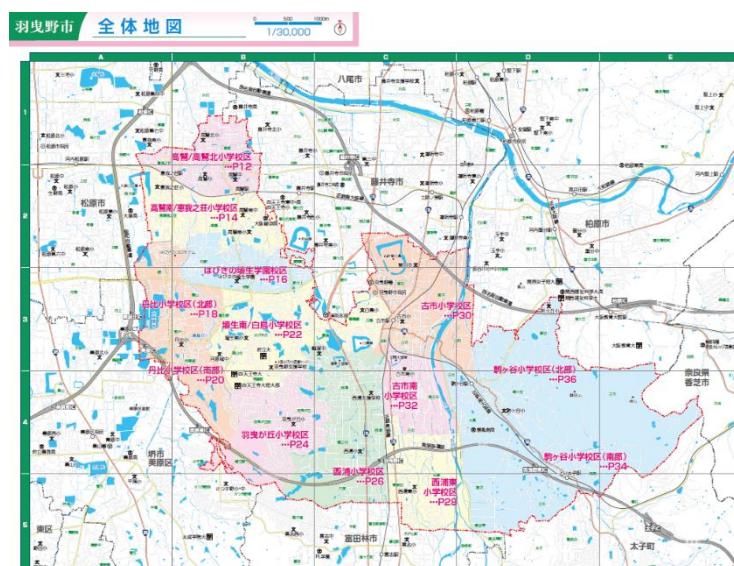
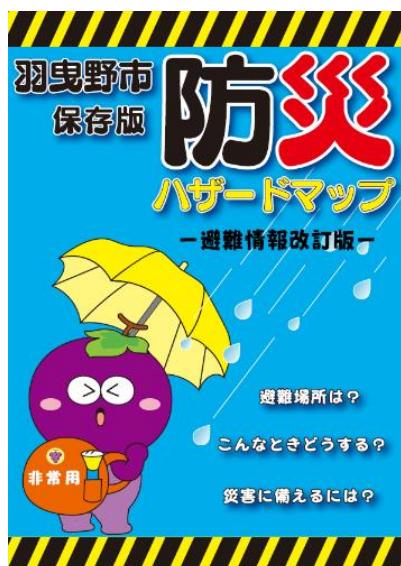
*出展：環境省 ペットも守ろう！防災対策パンフレット

③避難を想定した準備

災害時に備え、避難場所や避難所の所在地及び避難ルートを調べておきましょう！

複数の避難ルートを考え、避難先までの所要時間や危険な場所を確認しておくことが安全な避難につながります。なお、避難先は公的な避難所だけに限りません。状況に応じて、事前に選定しておいた安全な場所（実家、親戚や友人宅など）に避難しましょう。

「羽曳野市防災ハザードマップ」を確認し、住んでいる地区の被害想定などを把握して、災害対策や避難方法について家庭内で相談しておきましょう。



※羽曳野市防災ハザードマップは、市役所別館3階危機管理課、市内公共施設等で配付しています。市ホームページからもダウンロードできます。



羽曳野市防災
ハザードマップ



羽曳野市内水氾濫
防災ガイド



羽曳野市内水氾濫
ハザードマップ



④避難用品と備蓄品の確保

避難所においてペットの飼育に必要なものは、基本的に飼い主が用意する必要があります！

災害発生時は、まず人用の物資が優先されることが想定されます。そのため、避難所などにペット用の救援物資が届くまでには時間がかかることがあるため、飼育に必要なものは少なくとも5日分（できれば7日分以上）は用意しておきましょう。

備蓄品には優先順位をつけ、避難時にすぐ持ち出せるよう飼い主の避難用品と共に保管しておきましょう。

優先順位1

健康と命にかかわるもの

- 療法食、薬
- ペットフード、水（最低5日分）
- キャリーバッグ／ケージ
- 予備の名札付き首輪
- リード（伸びないもの）
- 食器
- ペットシーツ
- トイレ用品



優先順位3

ペット用品

- タオル、ブラシ
- ウエットタオル、清掃綿
- ビニール袋
- お気に入りのおもちゃなど匂いがついた物
- 洗濯ネットなど
(猫の場合、保護や屋外診療で役立つ)
- ガムテープや油性マーカー
(ケージの補修、ペット情報の掲示等に使用)



優先順位2

情報

- ワクチン接種状況、既往症、投薬中の薬、かかりつけ医などの情報
- 飼い主の連絡先とペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預け先などの情報

ローリングストック、してみませんか？

普段から少し多めに食材や加工品を買っておき、使ったらその分を新しく買い足す事で常に一定の食材を備蓄しておく方法をローリングストックと言います。こうすることで、備蓄品の量や食べ方を把握し、鮮度を保つことができます。

Check!!

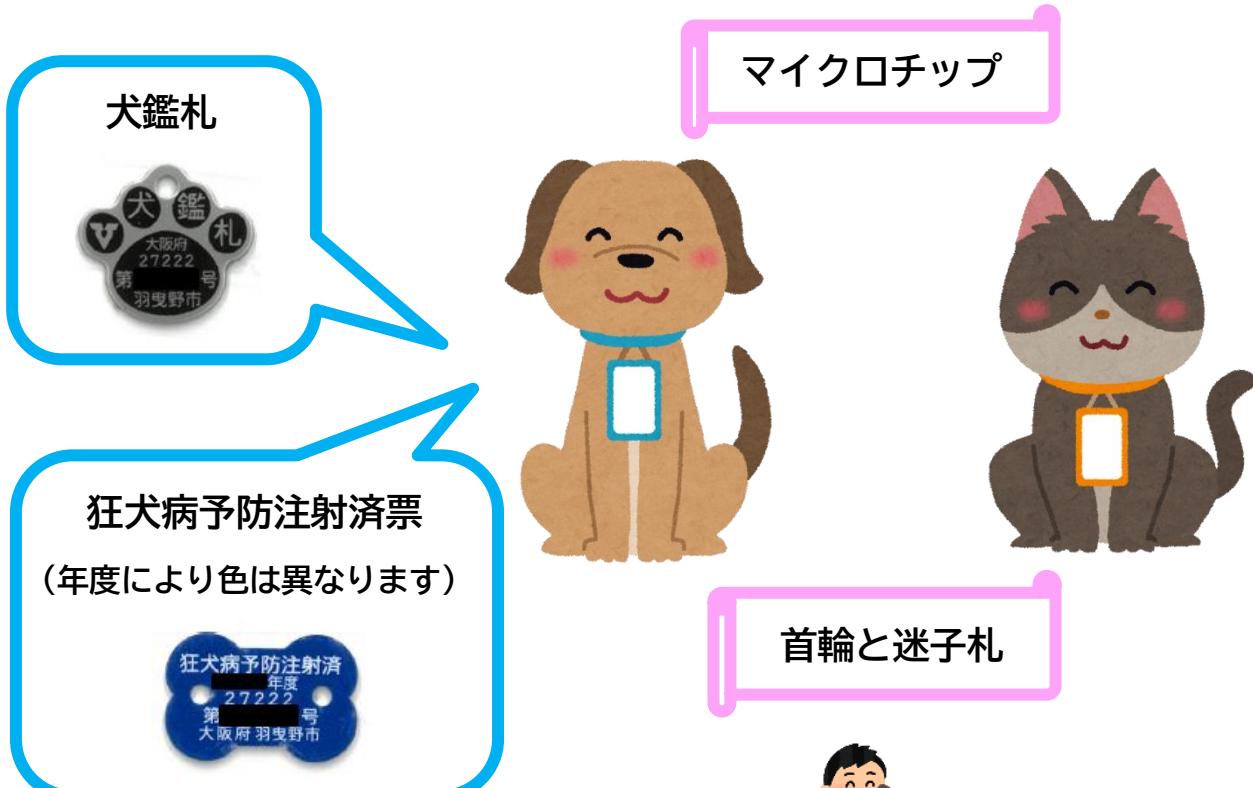
- 必ず古いものから使う。
 - 使った分をすかさず補充する。
- 人用の食材と一緒にペット用のフード等もローリングストックしておきましょう。



⑤身元表示～迷子の際困らないために～

災害発生時には、やむを得ずペットを残して避難してしまうなどペットとはぐれてしまう場合がありますので、ペットが迷子になっても飼い主の元に戻ることができるよう、外から見えてすぐ分かる迷子札や、脱落の恐れがなく、確実な身分証明となるマイクロチップを装着しましょう（登録機関に所有者情報の登録を忘れずに行いましょう）。

犬については、鑑札・済票装着が義務になります。



Check!!

- ペットと一緒に撮った写真を用意している
- 「探しています」チラシやポスターを作成している
 - ・ペットが迷子になったとき、大きさや特徴が分かり探しやすくなります。
 - ・もしもはぐれてしまった時のため、愛犬・愛猫を探している事を周知するためのチラシやポスターを準備し、非常時用持出袋に入れておきましょう。



マイクロチップとは

直径2mm、長さ約8~12mmの円筒形の電子標識器具で、15桁の数字（個体識別番号）が記録されています。一度装着すれば、首輪や迷子札のように外れて落ちたりする心配が少なく、より確実な身分証明になります。マイクロチップを装着した後は、必ず登録機関にマイクロチップ番号や飼い主の連絡先などの登録手続きを行い、転居等で登録情報に変更が生じた場合は、変更手続きを行いましょう。

※装着しただけでは所有者明示になりません！

必ず飼い主の登録手続きを行ってください！



II 災害時の行動

①安全確認と避難の判断



災害時にはまず、自分自身の安全を確保してください。ペットはパニックになっている可能性があるため、逃げられないよう注意しながら安全を確保します。その後、避難すべきかどうか情報を集めながら判断します。



<地震の場合>

自身の身を安全に守る行動をとりましょう。その後、ペットをケージに入れたり、リードを付けたりして安全を確保します。次の揺れが来る前に避難経路を確保し、情報を集めて避難の判断をしましょう。



<大雨の場合>

ハザードマップで自分がいる場所の危険度を確認します。危険な場所の場合、ペットをケージに入れるかリードを付けて連れて出られるよう速やかに準備しましょう。

情報収集はテレビやラジオ、自治体などのホームページから正確なものを得るように努めましょう。危険な場所にいる場合、ためらわず速やかに避難してください。

5段階の警戒レベル、知っていますか？

災害時、避難のタイミングを判断する大きな基準が国が示している5段階の「警戒レベル」です。災害の状況をすぐに理解するため活用しましょう。

避難情報の種類及びとるべき行動

警戒レベル	避難情報等	発令時の状況	取るべき行動
高 ↑ 警戒レベル 5	緊急安全確保	既に災害が発生している状況を把握した段階。	・命の危険。直ちに安全確保をしてください。
~~~~~(警戒レベル4までに必ず避難!)~~~~~			
警戒レベル 4 全員避難	避難指示	通常の避難行動が出来る者が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。	・速やかに避難しましょう。 ・避難所への避難を開始しましょう。 ・逃げ遅れた場合や屋外に出るとかえって危険と判断した場合は、建物の2階や斜面と反対側に逃げるなど屋内より安全な場所に避難しましょう。
警戒レベル 3 高齢者等避難	高齢者等避難	災害による人的被害が予測されるときに、避難行動のため高齢者等早めの避難を呼びかけるために発令。	・テレビ等から最新の情報を収集し避難の準備をしましょう。 ・避難に時間がかかる高齢者らは避難を開始しましょう。
警戒レベル 2	大雨・洪水・高潮 注意報等 〔気象庁が発表〕	気象状況の悪化	・ハザードマップ等により災害が想定される区域や避難先の避難経路を確認しましょう。
警戒レベル 1	早期注意情報 〔気象庁が発表〕	今後気象状況の悪化のおそれ	・災害への心構えを高める必要があります。

*令和3年5月20日現在の情報です。今後、変更となる場合があります。

*最新情報は、テレビやインターネット等で確認してください。

*出展：内閣府ホームページ

②ペット同行避難

ペット同行避難先は、公的な避難所だけに限りません。状況に応じて、飼い主が事前に確保しておいた安全な場所（実家、親戚や友人宅など）に避難しましょう。

ペット同行避難をする場合は、首輪が緩んでいないか確かめてから、リードをつけるかハードタイプのキャリーやケージに入れ、避難用品を持って避難場所や避難所に向かいましょう。キャリーやケージの扉が開いて逸走しないよう、扉をガムテープで固定するとよいでしょう。

避難所では、運営者の指示に従いペットを所定の場所に収容しましょう。

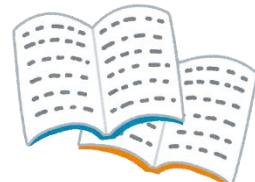
避難所で想定される流れの例

1. 入所受付

飼い主とペットの情報を記入した登録票を提出していただきます。（別紙）

«記入する情報の例»

- ・飼い主の氏名と緊急連絡先
- ・ペットの種類や特徴（性別、体重、毛色など）
- ・飼い主が分かる方法（マイクロチップ、鑑札等）
- ・ワクチン接種、不妊去勢処置の有無
- ・（犬の場合）狂犬病予防法における登録と予防注射の有無



2. ペットスペースへ移動、ケージを設置する

他の動物が見えないよう布や段ボールで視界を遮ることで、無駄吠えを予防し、動物のストレスを減らすことができます。

3. ケージにペットの情報を掲示する



避難所の運営者は様々な対応に追われることが予想されますので、ペットスペースの設営など積極的に協力しましょう。

③避難生活と共助

避難中は各避難所のルールに従い、責任をもってペットを飼育しましょう。避難生活は自助が基本ですが、避難所の運営には飼い主同士の助け合いと協力（共助）が必要不可欠なため、少しでも快適な空間となるようお互い意識して過ごしましょう。

«飼育スペース基本ルールの例»

Check!!

- 飼育スペースから出さない
- 建物の壁・床を汚さない
- 定期的に清掃し、においや毛の飛散・発生防止に努める
- 散歩も含めて発生したウン尿はルールに従って片付ける
- 鳴き声防止のため、夜間はペットスペースへの出入りを控える



車の中での避難生活

避難所ではなく、車に避難をするという選択肢もありますが、この場合、自治体が避難者の状況を把握できず、適切なケアが難しくなります。やむを得ず車中泊をする場合は、避難所で受付をしたうえで、「エコノミークラス症候群」の予防に留意しましょう。



エコノミークラス症候群【正式名：肺血栓塞栓症】とは？

この呼び名は、飛行機などの座席で長時間じっとしていて急に立ち上がった時などに発生しやすいことに由来します。飛行機だけでなく、車で寝泊まりする際でも足に血栓ができやすく、発症しやすくなります。重症になると命にかかわることがあるため注意しましょう。

原因となる血栓ができるよう、以下の予防策を講じましょう。

Check!!

- 眠る時は足を上げる
- ゆったりとした服装にする
- 脱水を防ぐため、こまめに水分を摂る
- 常日頃から運動する習慣を身に付ける
- 長時間座りっぱなしの際、足首や膝の運動を時々行って脚の血流を保つ



また暑い時期は、車内の気温に注意し、飼い主・ペットともに熱中症にならないよう気を付けましょう。

熱中症
予防



同行避難可能施設一覧【全21施設】

指定避難所	所在地
古市小学校	古市1-2-5
古市南小学校	古市5-14-38
駒ヶ谷小学校	駒ヶ谷344-1
白鳥小学校	白鳥3-8-17
羽曳が丘小学校	羽曳が丘6-8-1
西浦小学校	西浦1050
西浦東小学校	広瀬75-3
高鷲小学校	島泉2-1-19
高鷲南小学校	高鷲2-12-1
はびきの埴生学園	伊賀5-8-1
埴生南小学校	はびきの6-6-1
高鷲北小学校	島泉4-3-33
恵我之荘小学校	南恵我之荘7-8-35
丹比小学校	郡戸206
誉田中学校	誉田6-5-37
峰塚中学校	西浦6-48
河原城中学校	桃山台4-123
高鷲中学校	島泉9-15-4
高鷲南中学校	高鷲2-2-1

福祉避難施設	所在地
LICはびきの	軽里1-1-1
タケダハムはびきのコロセアム	南恵我之荘 4-237-4